

2型糖尿病患者も心臓血管病予防のための推奨項目がまとめられる —米国心臓協会（AHA）と米国糖尿病学会（ADA）の合同声明より—

糖尿病は心臓血管病の重要な危険因子であり、また、糖尿病患者における最大の死因は心臓血管病であるため、心臓血管病予防を目的とした危険因子の管理が重要となる。近年、糖尿病患者の血糖や血圧管理、アスピリン治療、生活習慣への介入などに関する重要な臨床試験が相次いで報告されていることから、最新の文献を中心にレビューした。さらに、栄養・肥満・血糖・血圧・脂質の5つの心臓血管病の危険因子の管理についての米国心臓病協会および米国糖尿病学会による推奨項目とエビデンスレベルをまとめた。

このうち血圧管理については、最近のランダム化比較試験やメタ分析において、厳格な降圧による効果が明確に示されなかったことから、糖尿病患者の血圧目標値が緩和される方向にある。しかし、ACCORD試験の副次的解析などで、脳卒中に関しては厳格な降圧による効果が示されたことから、全ての糖尿病患者に対し、同じ降圧目標値を一律に当てはめることは適切でない可能性がある。したがって、冠動脈性疾患はないが脳卒中リスクが高い患者に対しては、もし安全に降圧できるなら、推奨値よりも低い収縮期血圧を目指すことで効果が期待できる可能性がある。今後、糖尿病に有益かつ安全に達成できる降圧目標値を明確にするため、さらなる研究が必要である。

また、新規糖尿病治療薬と心臓血管病リスクに関しては、現時点でメトホルミン以外の糖尿病治療薬で2型糖尿病患者の心臓血管病予防において優位性が示されている特定の薬剤はない。したがって、治療薬の選択では血糖管理における有効性だけでなく、安全性や体重増加・低血糖などの有害性、費用、QOL（生活の質）などを考慮する必要がある。

出典：Circulation. Published online Aug 5, 2015; pii: CIR. 0000000000000230